



新CL寓話—VI

2019

David K. Reynolds, Ph.D.

第1部

6. 王女と心の痛み

昔、人生におびえている美しく若い王女がいました。(著者はとても神経質なので、人生が王女を傷つけるだけと考えました。)彼女はベッドから出ないと決めました。王である父親はひ弱な娘を心配していました。王女はまもなく結婚適齢期になります。しかし、このような繊細な娘と結婚する者がいるでしょうか？

王女は何週間もベッドまで運ばれた食事を食べ、本を読んで過ごしました。自室から部屋の外に足を踏み出すのを拒みました。

「世界は醜悪さと貧困があふれています。私の部屋では完全ないい世界を作れます。この部屋の世界には痛みがありません。ほんの少しの悲しみだけで」と王女は母親に言いました。

食べ物やベッドシート類を運んできた召使たちが王女の部屋に入るとすぐに、憂うつオーラを感じました。王女は召使たちの眉の上に少しの心配が読み取れるのが怖くて、彼らに顔を向けませんでした。他の人の心配を認めると自分の心に痛みをもたらすからです。自分自身を守るためにそれほど懸命に努力したのです。

王様と女王は大勢のアドバイザーを呼び寄せました。それでも、妙薬や講話、懇願の涙、命令にもかかわらず、王女は自室を出るのを拒絶しました。徐々に色白の肌は青白さに変わっていきました。美しい繊細な様子は病的に弱り始めました。

王は王女の心を勝ち取って、彼女を部屋から誘い出せた貴族には莫大な褒美を与えると告示しました。何人が試みたのですが、王女がまったく人と関わる気がないことで無駄に終わりました。

「私をあなたに捧げるとしたら、後で私を残して去ってしまうかもしれません。いずれにしてもあなたと私はいつか死ぬでしょう。ですから離れる痛みは避けられない愛の結果です。今は安全ですが、でも悲しいです」と言葉を残して王女は枕に頭を向けて、求婚者をもう見ようとはしませんでした。

ある日、王女の週に1度の健康診断の日に侍医は王国外の議会に出席する予定があり、代わりに彼のインターンを王宮に送りました。

若い「インターンの医者」はまじめで頭の良い人でした。王女の脈をとって、顔色と手の冷たさを調べた後で、気分はどうか尋ねました。

「良いような悪いような…」とあいまいに答えました。

「必要なものは何かありますか？なんでもお持ちしましょう」と医師は尋ねました。

「いいえ、私の質問にだけ答えてください」。

「いいですよ」。

「専門職として強いられるあらゆる病気と痛みを見るのに、どう耐えられるのですか。先生が毎日直面しなくてはならない人間の痛みを見るのを私は耐えられませんでした」。

返事をする前に若者はひと呼吸おきました。

「確かに、私は人々が毎日傷ついているのを目にしています。人の苦しみに関わって何かをしようとするので耐えられるのだと考えます。苦しむ人々から距離を置いて、観察するだけで、何も助けようとしなかったなら、自分にとって悲惨な結果となるでしょう」。

「でも時々患者の容態は悪くなって死ぬこともあります」と王女は述べました。

「はい、その通りです」。


「そして、先生は人々の厳しい痛みと同じように自身の失敗も知らなくてはなりません」。

「そうです。私が人々を助けるとは言っていません。助けようとしていると言ったのです。その結果は成功する時もあるれば、逆の時もあります。また、私の試みが患者をさらに悪くする時があります。私が何もしなくても元気になる時もあります。このようにわからないことがたくさんあります。でも何かをするのはとてもだいじです」。

「どうもありがとう」と王女は言って、肩の周りにベッドカバーを引っ張り上げました。彼女には考えることがたくさんありました。

王国中が王女を看護師か医師にさせないのは残念です。王女が一番なりたいと決めることだったのは確かです。それにインターンとの結婚を許して、王室家系につながらなかったのも残念です。結局のところ、インターンの救いの言葉への感謝によって王女の好意は生まれたかもしれません。しかし、王女は自分の部屋から出て、徐々に、人々の痛みを減らそうと、痛みに向き合うよう励みました。献身的な目的によって王女の自己中心は克服されました。他の人の痛みにたじろぎましたが、痛みが少なくなるよう自分ができる援助をしました。

ある人はとても神経質です。その人たちは簡単に傷つきます。部屋にこもって本を読むだけとか、映画やテレビばかりを見て過ごします。実際の世の中はとても厄介です。神経質な人たちは世の中が理想的で完ぺきだと思いたがります。本当の世間の痛みと不完全さを見たくありません。この物語での王女がそうでした。医者が毎日患者の病気と痛みを見るのにどうやって耐えられるか理解できませんでした。若い医者は病や痛みを変えようとするから耐えられると言いました。自分の場合でも、周りの不完全さは耐え難いです。しかし、他の人たちに手を貸そうとして、自意識過剰を失くし、不完全な世界に平和を見つけます。(アメリカ・オレゴン州CLセンター所長)

 [目次へ戻る](#)